

# 令和5年度 学校教育自己診断 集計結果

## 令和5年度 学校評価 アンケートの概要

1. 実施期間 教員：令和5年11月（自己評価）、回答40人  
保護者：令和5年11月中旬 用紙配付  
生徒：令和5年11月 HRにて実施

### 2. 回答数

	保護者	生徒
1年生(50期生)	186人	224人
2年生(49期生)	164人	222人
3年生(48期生)	143人	218人
合計	493人	664人

3. 質問項目 大阪府教育委員会指定の必須項目を含めて実施

## 1. 自己評価(教員アンケート)の集計結果

(1) 分析の概要 いくつかの質問において、前年比で数値の下降が目立った。

1. 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(今年度 84.6% ← 昨年度 79.5%)
2. 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(71.1% ← 62.8%)
3. 授業において、指導方法の工夫・改善に努めている。(92.1% ← 90.9%)
4. 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(74.4% ← 68.2%)
5. 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(76.9% ← 86.4%)
6. 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(72.5% ← 81.4%)
7. 学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。(56.4% ← 70.5%)
8. 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(71.8% ← 79.1%)
9. 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。(59.0% ← 62.8%)
10. いじめ(疑いを含めて)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。(69.2% ← 88.4%)

\* 上昇し質問項目では、質問2が目立つ。1年を振り返って次の年に生かしていくという不変の動きではあるが、回復傾向であることは望ましいことであろう。対して質問7の数値が大きく落ち込んだことについては気がかりな部分である。生徒指導に関しては、時代の流れに合わせて徐々に指導に用いるべき手法も変化してきていることは間違いないが、特に言葉遣いであったり、生徒対応のやり方がやや画一的であるとの指摘が意見として届くこともあり、より対応力の高い指導への進化が求められているのではないかとと思われる。また、質問6、10についての数値低下については原因の特定を今後急がなければならない課題と受け止めるべきであろう。その他の項目については、大きな数字の振れは生じていないが、全体的に数値は下降傾向にあり、本来もっとできていなければならないことができていない部分が見られると教員が考えていることの表れであろう。

## 2. 保護者アンケートの集計結果

・保護者アンケートについては、全体的には評価数値が大きく変化している部分は感じられなかったが、過去数年の幅で見た場合、課題がやはり存在している。新型コロナの扱いが変わったこともあり、質問9の数値が大きく上昇している。

(1)分析の概要 ほぼ全ての質問で数値が下降した。

1. 子どもは学校に通うのが楽しいと言っている。(今年度 80.7% ← 昨年度 77.9%)
2. 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。(61.9% ← 60.6%)
3. 学校の生徒指導の方針に共感できる。(64.0% ← 67.9%)
4. 学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(79.9% ← 78.7%)
5. 学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。(83.5% ← 80.1%)
6. この学校の部活動は活発である。(82.0% ← 84.6%)
7. 学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。(84.1% ← 83.2%)
8. 先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。(71.5% ← 74.2%)
9. この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。(77.7% ← 57.5%)
10. 学校は教育情報について、提供の努力をしている。(85.2% ← 80.7%)
11. 学校はいじめなど子供が困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(80.3% ← 79.3%)
12. 学校は一人一台端末を効果的に活用している。(88.7 ← 85.1%)

大きく上昇しているのは新型コロナの行動制限による影響が弱まった9である。また、質問1の数字が過去4年間で7~8ポイント下降していたが、回復が見られたことは望ましい傾向である。対して、質問3については同じく過去4年でおおよそ10ポイント以上下がっていることは気がかりな部分である。また、質問6については長年にわたっておおよそ90%を保っていたが、これも下降が続いている。学校生活の柱の1つであり、活気に関わる部分でもあるだけに、改善が求められよう。

また、教師の対応については自由記述では厳しい意見が届いている。常に教師の振る舞いや言動には責任が伴うことを改めて確認する必要があるのかも知れない。

## 3. 生徒アンケートの集計結果

(1)生徒アンケート 分析の概要 全体として数値は下降傾向である。また、学年によって大きな振れが生じている項目が目立った。

1. 学校に行くのが楽しい。(今年度 75.6% ← 昨年度 74.5%)
2. この学校には他の学校にはない特色がある。(48.7% ← 55.2%)
3. 授業が楽しくわかりやすい。(53.0% ← 53.9%)
4. 教材や教え方にICT(パソコンやプロジェクター等)も含めて、様々な工夫をしている先生が多い。  
(89.8% ← 89.9%)
5. 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。(84.3% ← 84.2%)
6. 復習などを中心とした宿題の量は適切である。(76.8% ← 76.7%)

7. 理解度に応じて補習や講習が行われている。(70.7% ← 68.3%)
8. 学校生活についての先生の指導は納得できる。(48.1% ← 53.5%)
9. 将来を考えると、校則はほぼ適切だと思う。(43.5% ← 45.2%)
10. 先生は、いじめなど生徒が困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(77.6% ← 83.9%)
14. 将来の進路や生き方について考える機会がある。(90.9% ← 90.3%)
15. 将来の進路はだいたい決めている。(68.4% ← 72.2%)
16. 自分の将来の進路決定に際して、本校の専門コースが役立っていると思う。(69.1% ← 70.9%)
17. 進路説明会、大学見学、企業見学など進路選択に関して学ぶ機会がある。(84.3% ← 76.3%)
18. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(76.5% ← 80.4%)
19. 学校全体として、部活動は活発だと思う。(85.1% ← 86.8%)
20. 体育祭・文化祭など学校行事は楽しく行えるよう工夫されている。(76.3% ← 86.0%)
21. 自習室、図書室等の開室がされていて、学習する環境が整っている。(92.1% ← 94.6%)
22. 学校は、清掃活動が行き届いていて清潔である。(46.5% ← 53.7%)
23. 学校は、一人一台端末を効果的に活用している。(88.7 ← 82.4%)

大きく数値が下降しているのは質問2で、生徒にとって魅力ある特色を持った学校づくりを生徒が求めていると感じる。また、質問9に関しては令和元年度以降 62.9%→60.7%→56.3%→50.7%→45.1%→43.5%と年々下降がコンスタントに進んでおり、時代の流れを受けて一定議論の必要があるのではないかと思われる部分である。また、学年によって大きな振れが生じているもの部分で気になるのは質問1(1年 75.4% 2年 71.3% 3年 90.2%) 質問7(1年 73.7% 2年 54.1% 3年 84.3%)の大きな振れが気にかかる部分である。特に、質問1で2年生が低調であること、質問7で2年生の落ち込みが目立っていることが気になる部分であり、生徒への様々な指導に関わる状況が学年によって振れが生じていないかが気にかかる部分である。

自由記述では生活指導のルール改正に関しての記述が多かった。生活面ではスマホに関する記述が目立った。教科指導や教師の対応についても中には厳しい意見がでてきており、見過ごすことなく、振り返りと反省のうえ、次年度に進むことが求められよう。

#### 4. 自由記述部分について

上記以外にも保護者、生徒、教員からは自由記述による意見も多数寄せられた。特に食堂の再開については保護者、生徒ともに記述が多く見られた。職員会議ですべての記述意見を共有した。